

ドイツ NOW 7月号

～ドイツと日本の学校生活～

国際交流委員会 2年4組 井上日南子 植野桃子

今月号では、姉妹校であるドイツ・ブランデンブルク州にあるルドヴィッヒ・ライヒハート校の高校2年生 Franjo 君へインタビューを行った。ドイツの高校生はどんな学校生活を送っているのだろうか。私たち大宮高校生の1日と並べて見ていこう。

[Japan]

[German]

電車で学校へ！
電車の人が多いが、自転車や徒歩の人も。
8時50分に授業開始。



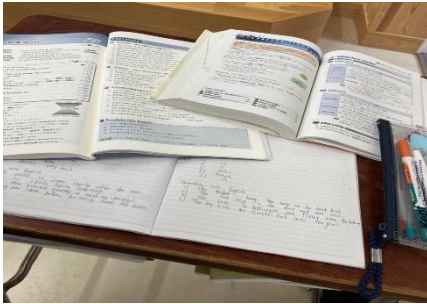
7:00

8:00

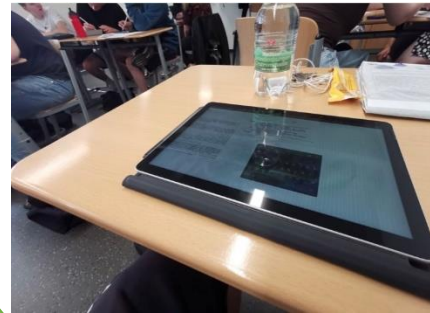


家を出発！！
自転車で学校へ。
授業は8時に開始。

教科書を机いっぱい広げて授業。苦手な科目は色々だが、芸術や体育になると活き活きする人が増える。



iPadなどを使いながら授業。授業はびっしりある訳ではなく、人によって空きコマがあることがある。



難しい授業
biology
(生物学)
楽しい授業
geography
(地理)
(Franjo君より)

12:00

多くの人がお弁当を持ってきて教室で食べる。購買でパンや弁当を買う人もいる。



スーパーに行くこともあるけれど、カフェテリアでLunch!!それぞれ好きなものを注文して食べる。ピザやポテトなどがあり、人気なのはチーズバーガー。

授業が終わると部活や委員会、帰宅など各々の活動へ。部活の人は大会などに向けて練習に励む。帰りに寄り道することもある。



15:00

学校が終わると、フィットネスができる施設へ行くのが人気。クラブ活動も存在する！ビデオゲームをしたり、泳ぎに行ったりもする。



24:00?

大高生は課題がたくさん。授業の復習や明日の予習に追われる毎日が続く。

宿題は2週間に1つ。数学の宿題であることが多い。また、政治についてのプレゼンやディスカッションの用意のこともある。宿題は多くない。

～比較してみて～

こうして比べてみると、ドイツの学校生活は大宮高校の生活とは共通している部分もあったが異なっている部分がたくさんあった。大宮高校では半数以上の人電車で通学しているのに対し、インタビューした姉妹校の生徒は自転車で通学していた。また、自転車置き場からも分かるように全体的に学校施設がとても綺麗なところも大宮高校とは異なっていた。楽しい授業、難しい授業などは大高生と同じように存在しており共通していた点だった。ドイツではほとんどの人がカフェテリアやスーパーでお昼を済ませており、ほとんどの人がお弁当を食べる日本との文化の違いを感じた。放課後に友達と遊んだりクラブ活動をしたりと各々が充実した時間を過ごしているところは大高生もドイツの学生も共感しあえる点だと思う。また、私たちの課題が多いのは日本の文化なのか大宮高校の文化なのか分からないが、宿題の少ないドイツとは大きく異なっていた。

～最後に～

ドイツ姉妹校の子の生活についてあまり知る機会がなかったけれど1日のスケジュールを知ることができて、羨ましく思ったりドイツでも感覚は同じなんだなと共感できる場所があったりと姉妹校について親しみを持つきっかけになりました。この新聞を読んでくださっているみなさんもあまり堅苦しく思わず、同い年の友達と思ってドイツの姉妹校に興味を持ち、ぜひ積極的に交流の機会に参加してほしいと思います。(井上)

インタビューを通し、ドイツの高校は、日本に比べて選択する機会が多いと分かり、同年代の高校生でも、国によって求められるものは違うのだと改めて感じました。私も同じ高校生として、自分で考え、それを表現する力を身につけていきたいです。姉妹校との交流が、ドイツの良いところを学び、私たちの生活に活かすきっかけになれば良いと思います。(植野)